

インターネットの興味深い相談から

院長

インターネットで医療相談を行なっていることを御存知と思います。医療相談は、当院の理念である「お母さんの不安・心配の解消」の全国展開としてはじめました。現在まで、5000件近い相談を受けてきました。医療相談と銘打っていますが、実のところは“よろず悩み相談所”です。一方的な訴えであり、診察もしていないわけですから、医療行為とは別次元のものなのです。少しでも多くの親御さんの「不安・心配の解消」をすることも小児科医としての使命だと思っています。

当院の対外的な活動を理解してもらうことを目的として、医療相談を取上げました。最近寄せられた印象深い相談を紹介したいと思います。

相談：はじめまして。1歳2ヶ月になる息子の停留瘻丸について相談があります。悩んでいて、ネットで先生がこのサイトを見つけました。息子は停留瘻丸で、1歳検診の時に手術をしたほうが良いと言われました。相談というのは、手術の時期についてです。私はカナダ在住で、来月、息子連れて日本へ一時帰国する予定です。カナダに戻ってくるのは4月中旬です。その時息子は1歳4ヶ月になっています。それから手術をしても遅くはないのでしょうか。ネット等で色々調べてみると、生後6ヶ月～1歳までに手術をしたほうが良いと書いておられるお医者様もいれば、2歳～3歳まで待って手術すると書かれている方もおられて困っています。正直、一刻を争う緊急な症状なのでしょうか。今すぐに手術をしたほうがよいと言われれば、勿論、日本行きはキャンセルする覚悟です。心配性で、毎日悩んでしまっています。どうぞよろしくお願いします。

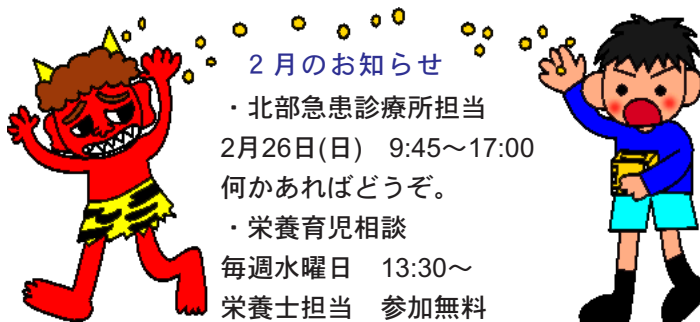
回答：御返事します。停留瘻丸の手術は、以前と比べて早くなっています。圧迫による精巣への影響は、3歳を過ぎると少しづつ高くなっていくと言われていています。ここ2ヶ月で取り返しのつかない状況になるとは思えません。当院では1歳6ヶ月までには手術を勧めています。もう一つ

重要なことは、親御さんの安心と時間です。日本に帰国してからの方が安心（日本の医療状況や言葉の問題）であり、時間も作れる（外来受診でそのまま手術ということになることは少ないため：手術まで時間が必要な場合も）ようであれば、帰ってからでも問題は無いと思います。まずはあんまり心配しないで大丈夫です。以上のような条件を考えて、決めればいいでしょう。

お礼：こんにちは。お忙しい時にご返信いただきありがとうございます。「まずは安心」。この言葉が聞きたかったんです。一刻を争う緊急な病気ではないことがわかり本当に安堵しております。ありがとうございました。このようなサイトは、私のような海外在住者にはとても強い味方です。日本語で相談が直接日本の小児科の先生に聞ける、というのは本当に助かります。実は、私が住んでいるカナダで、1ヶ月検診の時に診ていただいた先生は（毎回違うドクターが診て下さいます）「停留瘻丸だけど、3歳までには手術が必要。」と言っていました。しかし1歳検診の時のドクターは、「停留瘻丸の手術は普通は1歳までにする。」と言うので、日本へ一時帰国することを伝えると、「どちらにせよ息子さんは1歳過ぎてるし、2、3ヶ月遅れたところで、結局もう遅れてるんだから同じこと。」と言うのです。この日、このドクターの発言は本当にショックでした。だから、自宅に帰ってきてすぐ、ネットで日本語の情報を色々調べたわけです。とにかく一安心です。安心して日本に帰ろうと思います。本当にありがとうございました。

数多くの医療相談からは、実に多くのことを学ぶことが出来ました。とりわけ、直接医師に向けられない親御さんの思いを知ることや、我が子を思う親の深い愛情に触れることが出来たことが大きな収穫です。海外在住の方々は様々な理由（言語の違いによるコミュニケーション、医療状況の違い等）で、不安や心配が強くなります。今回のメールは海外での問題と母親の気持ちが浮き彫りにされています。心配事は様々ですが、子どもの健康はとても大きな問題です。

時には不愉快な相談があったり、お礼が必ず来るものでもありません。実際に何度か中止しようと思ったこともありましたが、そんな状況でも医療相談を続けられる理由は、紹介したような感謝やお礼のメールです。ありがとうという言葉とともに親御さんの気持ちが伝わってきます。メールを通して人のために貢献できているという実感が生まれます。相談者の感謝の気持ちを支えに、しばらく医療相談を続けるつもりです。そしてメールで頂くような親御さんの思いを、診療に活かしたいと思います。



2月のお知らせ

- ・ 北部急患診療所担当
2月26日(日) 9:45～17:00
何かあればどうぞ。
- ・ 栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～
栄養士担当 参加無料

読者の広場

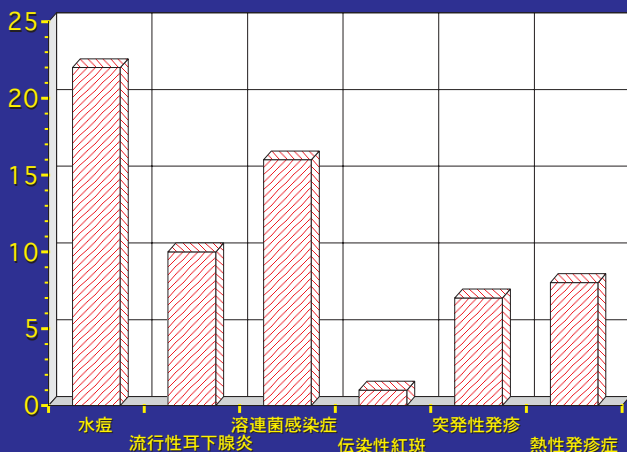
先月は29通のメールを頂きました。先月はどちらかと言うと医療相談が多い月でした。先月に続き転居した患者さん2人から相談を頂きました。若林区の相原さんからです。「川村先生、おはようございます。相原璃空・太琉(リク・タク)の母です。いつも二人の息子を診て下さってありがとうございます。そしていつもご苦労様です。

昨日の検診後、友人の問題に耳を傾けてくださりありがとうございました。先生の患者ではないので、話を聞くのはどうかと思いましたが、佐藤さんが『聞いてくださると幸いですよ』と言って下さったので、相談しました。友人を心配するのと、先生の優しさで胸が熱くなりました。本当に感謝致します。しかし正直…漢方を飲ませたり、熱が続いても何の処置もない…こんな小児科が二軒もあっていいのでしょうか。ただでさえ初めての子育ては不登で一杯なのに、何を信じていいのが解らなくなりますよね。私は友人に紹介して頂き『何があってもここだ！息子の体を解ってるの普通であれば下さるのもですが、信頼し安心して通える病院があるって事も大事ですよ。愚痴になってしまいました、すみません。先生は『いつ休んでいるの?』という忙しさですが、頭が下がります。私は時間を見つけては“休憩”の事しか頭にないので見習いたいですf(^_^)。先生は“タフ”なんだなあと思いますが、どうかお体に気をつけて下さい。(自分の体がもう一つあったら…と思いませんか?主人は自営でいつも言ってます笑)そしていつもお世話になってるスタッフの皆さん、先生を支えるご家族の皆さん(尊敬です)に宜しくお伝え下さい。御礼が遅くなったのと、携帯でのメールで長々とすみませんでした。ありがとうございましたm(_ _)m。困ったことがあれば、どんどん聞いて下さい。確かに、小児科探しは大変かも知れません。どんな病院(当院も含めて)、万人がいいという病院はありません。いいという人もいれば、良く無いという人もいますのです。昨年もクレームメールを紹介しましたが、大事なことは相性なのです。人間も同じで、誰からも好かれる人はほとんどいないと思います。大丈夫、先生もちゃんと休んでいます。ただ最近では、休日に会議や勉強会もあり半分は仙台にいません。もうひとつ体があればと思いたいです。ふたつ目も同じことをしそうなので、しばらくは無くてもいいでしょう。スタッフだけでなく、家族への気遣いありがとうございます。家族から見ると小児科医としては尊敬できるけど、父親としては…です。やはり、誰からもということは難しいと感じています。続いては泉区の泉さんからのメールです。「テレビ拝見しました。さくらも康太も大喜びでした。(子供番組より先生が見たい!!)といいました。びっくりです)。インフルエンザが流行る前に一度伺うことになりそうです。二人とも鼻と咳が怪しい感じになりつつあります・・・」。院内にも掲示してあるので御承知のことと思いますが、東北放送が取材に来て、1月25日に「インフルエンザ警報！」としてイブニングニュースTBCで放映(26日の朝の番組でも)されました。取材でインフルエンザが増加し、1月末から2月初旬にピークを迎えるとコメントしました。少なくとも1月末現在、あまり流行は広がっていないようです。良いのか悪いのか、ちょっと予想が外れたかも?。



二月中旬以降に一歳になるお子さんの麻疹ワクチンの接種は四月まで待つて麻しん風疹混合ワクチンで

1月の感染症の集計



グラフに示していませんが、インフルエンザは1月中旬に86人みられ、下旬になり増加傾向です。しかし、大きな流行には至っていません。水痘は12月の29人からは減少しましたが、まだまだ流行中です。流行性耳下腺炎(おたふく)も少し減りましたが、こちらも流行中です。溶連菌感染症は、むしろ増えています。12月に3人だった川崎病が、1月にも2人みられました。川崎病は普通年に2~3人程度ですから、ここ1カ月で5人は異常というしかありません。

※川崎病：発熱、発疹、結膜充血、いちご舌などを伴う原因不明の病気。冠動脈(心臓の血管)に動脈瘤の合併症が起こることも。

新しいスタッフが入りました

スタッフの欠員で御迷惑をお掛けしていましたが、看護スタッフとして、北澤宏枝君が加わりました。以前当院で働いていた経験があります。現在のところ午後の勤務です。どうぞ、よろしくお願いたします。

編集後記

本当に雪の多いシーズンです。夜雪が降っていると、どうか積もらないでと、お祈りします(大袈裟ですが)。大雪の地方から見れば、こんなことで泣き言をいってられません。やはり雪掻きは大変なのです。本当に「は～るよ来い!は～やく来い」の心境です。



お母さんクラブの御案内 「子どもを守る 防犯対策」

2月16日(木) 14:00～

場所：福沢市民センター 参加費 200円

近年、子どもを対象にした犯罪が増加しています。スペルマン病院でおきた新生児誘拐事件もあり、何時どんな犯罪に巻き込まれるかわかりません。今回のお母さんクラブは仙台北警察署のご協力を頂くことになりました。子どもを守るためには、どんなことに注意を払うのか。具体的な例を交えて解説していただく予定です。今回は会員以外の方の参加も可能です。詳しくは、受付まで。

院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。詳しくはかわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を